

別表：医薬品関連分野における韓国企業の海外進出事例（2021年1月～2022年5月中旬）

| 年・月 | 韓国企業名 | 投資先国・地域 | 総投資額 | 概要 |
|---------|-------------------|---------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021年1月 | JWバイオサイエンス | シンガポール | — | ワンバイオメッドの発行株式3.4%を取得。同社の臨床現場即時検査製品の韓国での販売権を獲得。 |
| 2月 | チャバイオテック | 米国 | — | 米国子会社がテキサス州で、次世代抗がん剤など細胞遺伝子治療剤に使用するウイルスベクターの生産施設を着工。この施設は、米食品医薬品局（FDA）が定める適正製造規範（cGMP）に準拠したもの。 |
| 3月 | L&Cバイオ | 中国 | — | 現地医薬品開発業務受託機関（CRO）企業の杭州泰格医薬科技（タイガーメッド）、投資銀行の中国国際金融（CICC）などと合弁会社設立の本契約を締結。L&Cバイオの合弁会社への出資比率は51%。L&Cバイオの生体移植材の販売、江蘇省昆山市での工場建設を予定。 |
| | SK | フランス | — | 子会社を通じ、遺伝子・細胞治療剤（GCT）原料医薬品製造受託（CMO）のイボスケシの発行株式70%を取得。成長が見込まれる遺伝子・細胞治療剤CMO事業に参入。 |
| 3月 | バイネックス | 日本 | 105億ウォン | ノイルイミュン・バイオテックの発行株式を追加取得。持株比率5.8%に。次世代抗がん剤CAR-T細胞治療剤市場への進出を目指す。 |
| 4月 | ヒューゼル | 中国 | — | 上海市に現地法人を設立。中国のボトックス注射市場開拓に注力する。今後3年以内に現地市場シェア30%達成を目指す。 |
| | HLB製薬、HLB | 米国 | 1,500万ドル | 両社は、CAR-T細胞製剤開発のベリスモ・セラピューティクスが発行株式30%を取得。4種類のCAR-T細胞製剤パイプラインの臨床試験に入る予定。 |
| | ヒューゼル | 台湾 | — | 徳瑪凱と合弁会社を設立。4年以内に台湾のボトックス注射市場でトップシェアを目指す。 |
| 5月 | SK | シンガポール | 120億ウォン超 | 抗体医薬品ベンチャー企業のハミングバードバイオサイエンスに対し、2020年（80億ウォン）に続く追加出資。SKバイオファームとのシナジー効果発揮を狙う。 |
| 6月 | セルトリオン、未来アセットグループ | 英国 | 4,700万ドル | 新型抗がん剤「抗体薬物複合体（ADC）」を開発するイクスタ・セラピューティクスに出資、セルトリオンが最大株主に。ADC新薬開発パイプラインの獲得を狙い。 |
| | SKグループ | ベトナム | 2,600億ドン | 同グループの東南アジア投資専門法人のSKインベストメントビナ3は、ベトナム5位の製薬会社イメックスファームの発行株式5.18%分を買い増し、出資比率29.22%に。今後、45%に引き上げる計画。SKグループの積極的なベトナム投資の一環で、現地製薬市場の成長性を評価。 |
| | SK | フランス | 5,800万ユーロ | 同社が2021年3月に買収したイボスケシについて、今後の市場成長を見込み、遺伝子・細胞治療薬を生産する第2工場を新設すると発表。2023年に完工すれば、イボスケシの生産能力は現在の2倍となり、欧州最大規模となる。 |
| | トングバイオ製薬 | 米国 | 500万ドル | 退行性脳疾患遺伝子分析を行うバルテッド・シーケンシングに出資、発行株式の11.11%を獲得。退行性脳疾患分野で競争力を高める狙い。 |
| | SCM生命科学 | 米国 | 100万ドル | バイオベンチャーのビタ・セラピューティクスに出資。幹細胞分野の研究開発力の強化を目指す。 |

別表：医薬品関連分野における韓国企業の海外進出事例（2021年1月～2022年5月中旬）

| 年・月 | 韓国企業名 | 投資先国・地域 | 総投資額 | 概要 |
|---------|----------------------------------------|---------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月 | 大熊製薬、ハンオール・バイオファーマ | 米国 | 100万ドル | 新薬開発のアプレックス・バイオセラピューティクスに共同で出資。同社の免疫細胞治療剤開発力を評価。 |
| 9月 | ジノム&カンパニー | 米国 | 318億ウォン | マイクロバイオーム開発・製造受託（CDMO）のリスト・バイオリジカル・ラボラトリーズの発行株式60%を取得、CDMO事業に本格的に進出。マイクロバイオーム新薬開発事業成功のためには早期の製品出荷、市場獲得が不可欠と判断し、既存企業の買収を決定。 |
| 10月 | ヒューメディックス | 米国 | 200万ドル | バイオ企業のキネタの発行株式の1.56%を取得。ヒューメディックスはバイオ医薬品製造受託（CMO）インフラを提供し、キネタは開発中の新薬パイプラインの非臨床資料を提供するなど、両社の協力関係を強化する。 |
| | 田園生命科学 | 米国 | — | 米国子会社のVGXIがテキサス州に建設中の第1工場の建屋が完成。プラスミドDNA受託開発製造のための発酵設備を試験稼働。DNA・RNA医薬品生産に対する需要拡大に対応する目的。 |
| | 韓美薬品 | 中国 | 1億1,300万元 | 北京市でシロップ剤工場と物流倉庫の完工式を開催。生産能力は従来の3倍に拡大。中国市場の拡大、他社からの受託生産に対応する。 |
| 11月 | SDバイオセンサー | ブラジル | 470億ウォン | 体外診断試薬製造の同社は、診断企業・エコの発行株式100%を取得。南米の体外診断用医薬品市場開拓の拠点とする考え。 |
| | SDバイオセンサー | インド | 398億ウォン | インド現地法人に追加出資。入札単位の大型化、価格競争激化に備え、ハリヤナ州所在の体外診断用医薬品工場を増強する。 |
| | SKバイオファーム | 中国 | 1億5,000万ドル | 上海市の投資会社・通和毓承（シックス・ディメンションズ・キャピタル）と合併で、中枢神経系治療剤開発製薬企業を設立すると発表。SKバイオファームは新薬候補の販売権を合併会社に技術輸出し、代わりに合併会社の株式44.9%を取得する。 |
| | SK | 米国 | — | 遺伝子・細胞治療剤（GCT）生産専門のバイオ医薬品バイオ医薬品開発・製造受託（CDMO）のCBMバイオファーマへの出資を決定。SKの高付加価値バイオ製造受託（CMO）事業に対する戦略的投資戦略の一環。 |
| | ジノム&カンパニー | 米国 | — | インディアナ州に子会社を設立。今後、マイクロバイオーム生産施設を建設する計画。 |
| 12月 | ビックスンク・セラピューティクス、韓国投資パートナーズ、E&インベストメント | 米国 | — | デジタル治療薬開発企業のリムビックス・ヘルスに出資。ビックスンク・セラピューティクスは、デジタル治療薬関連事業におけるリムビックス・ヘルスとの協力を強化する狙い。 |
| | KT | 米国 | 500万ドル | 電子薬開発のスタートアップ企業・ニューロシグマに出資。2021年6月に電子薬製品開発・事業化で提携したことに基づくもの。KTとしては今後のデジタル治療剤市場への本格参入の足掛かりとする考え。 |
| 2022年1月 | 韓美薬品 | 米国 | 240億ウォン | 抗がん新薬候補物質・好中球減少症治療技術開発のロロンティスに出資、発行株式の約10%を取得。ロロンティスとの関係を強化する狙い。 |
| | チャバイオテック | 米国 | — | テキサス州で建設中のウイルスベクター生産施設の規模を当初計画の3倍に拡張すると発表。世界的な細胞・遺伝子治療市場の拡大を見込む。 |

別表：医薬品関連分野における韓国企業の海外進出事例（2021年1月～2022年5月中旬）

| 年・月 | 韓国企業名 | 投資先 国・地域 | 総投資額 | 概要 |
|-----|--------------------|-------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月 | SK | 米国 | 3億5,000 万ドル | 細胞・遺伝子治療剤（GCT）開発・製造受託（CDMO）のCBMIに出資し、2大株主に。SKでは「CBMへの出資を通じ、2025年までに米国・欧州・アジアの主要拠点別に合成・バイオ医薬品事業のバリューチェーンを完成し、世界トップの細胞・遺伝子治療剤CDMOに成長する」としている。 |
| | 三一製薬 | ベトナム | — | ホーチミン市で建設中の点眼薬工場を7月に竣工する予定と発表。ベトナムを世界市場向けの生産拠点化する狙い。併せて、点眼剤分野の医薬品製造受託（CMO）、開発・製造受託（CDMO）事業を強化していく。 |
| 2月 | SKグループ | ベトナム | 4,400万 ドル以上 | 同グループの東南アジア投資専門法人のSKインベストメントビナ3が、イメックスファームの発行株式を追加取得、出資比率は46.47%に上昇。同グループは今後の成長分野として車載電池、バイオ医薬品、半導体を重視しており、その一環としての出資。 |
| 3月 | バイジェンセル | オーストラリア | — | バイジェンセルは保寧（旧・保寧製薬）の関係会社で、製薬免疫細胞治療剤を開発する企業。オーストラリアに現地法人を設立した。臨床基盤施設が充実していること、迅速に臨床試験に入れることなどといったオーストラリアの事業環境を評価。 |
| 3月 | サムスン物産、サムスンバイオロジクス | 米国 | 200億ウ オン | 両社が造成したライフサイエンスファンドが遺伝子治療剤開発のジャガー・ジーン・セラピーに出資。今後、ジャガー・ジーン・セラピーと研究開発プログラムの発掘・開発で協力。 |
| | ハンファインパクト | 米国 | — | 化学企業の同社は、遺伝子治療剤開発スタートアップ企業のテセラ・セラピューティクスに出資。 |
| 4月 | ハンオールバイオファーマ、大熊製薬 | 米国 | — | 細胞リプログラミング技術研究のターン・バイオテクノロジーズに出資。ターン・バイオテクノロジーズのプラットフォームを韓国企業側の眼疾患・免疫疾患領域で活用する狙い。 |
| | GCセル、緑十字 | 米国 | 7,300万 ドル | 細胞・遺伝子治療剤（CGT）開発・製造受託（CDMO）のバイオセントリックの株式100%を買収。CDMO事業強化を目指す。 |
| 5月 | レゴケムバイオサイエンス | 米国 | — | 抗体薬物複合体（ADC）プラットフォーム技術を基盤とした新薬開発のため、バイオ企業が集積するポストンに現地法人を設立。 |
| | ロッテグループ | 米国 | 1億6,000 万ドル | 製薬会社ブリストルマイヤーズスクイブ（BMS）の生産拠点の買収を決定。生産拠点確保、許認可手続き簡素化、事業ノウハウ獲得などが狙い。 |
| | ヒュオンスグローバル | 日本 | — | ヒュオンスグループの医薬品、医療機器、健康機能食品の販売などを目的に大阪市に日本法人を設立。海外現地法人の設立は、米国に次いで2カ国目。 |
| | SKバイオファーム、SK | 米国 | — | デジタル治療薬開発企業のカラーヘルスへの出資を決定。自社のデジタル治療薬との相乗効果を狙う。 |

注1：「年月」は報道日を基準としている。「韓国企業名」「概要」は原則的に報道時に準拠する。

注2：「—」は不明を示す。

注3：為替レートは、1ウオン=0.1円、1ドン=0.005円、1ユーロ=136円、1元=19円。

出所：韓国の各メディア報道、各社発表を基に作成